

<資料>

長野市上高田地域公民館 60 年の地域づくり活動

関川光彦 長野県農業大学校

土井 進 信州大学教育学部教育科学講座

Sixty Years of Activities of the Nagano City Kamitakada Community Center for the Development of its Community

SEKIGAWA Mitsuhiro: Nagano College of Agriculture

DOI Susumu: Educational Science, Faculty of Education, Shinshu University

This paper reports on the activities and the contribution of the Nagano City's Kamitakada Community Center to the community over a period of sixty years. It has played an important role of strengthening the relationship among people in the community by providing them a place to gather together, enjoy themselves and acquire useful information. However, current concerns are that 1) people do not come to the Center often enough, and 2) the work load for the staff at the center has been overwhelming.

【キーワード】 長野市上高田地域公民館 住民自治 地域作り活動 社会教育演習

1. はじめに

2008年(平成20年)10月10日と17日の2回、信州大学教育学部の「社会教育演習」の授業の一環として、12名の学生と共に長野市立上高田地域公民館を訪問し、地域公民館の実情について聞き取り調査を行った。本稿は、60年の歴史を刻んだ長野市上高田地域公民館の実情を資料として残すことを目的としている。

2. 長野市上高田公民館の概要

長野市上高田地域公民館の規約にはこの公民館の目的について、次のように示されている。公民館は地域社会発展のため長野市古牧公民館は古牧地区公民館連絡協議会と連携し、社会教育活動、文化活動を推進し、明るく住みよい町づくりに務める。

長野県内にはどの地域にも地域公民館がある。市立公民館や町村立公民館ではない地域公民館がある。このような地域公民館は大きな建物ではなく、こじんまりとした集会場のような感じの公民館である。中には畳の部屋、床の部屋、炊事場、トイレ、倉庫があり、数十人が集まることができる大きさの構造となっている。施設の建設に関わる費用は、市町村からの補助金以上に、地域の人たちからの寄付金が大きかった。ここには専従の職員はおらず管理運営はそ

の地区の人たちがあまっている。住民が自由に利用することができることが大きな特色となっており、その地域の住民にとっては重要な施設となっている。1年ごとに地区内の住民から公民館運営会費を徴収するとともに、事業の運営はボランティアで実施している。

3. 上高田地域公民館で行ってきたこと

上高田地区でのあらゆる会議、講演会や学習会、文化芸能祭など様々な行事が行われてきた。初期の段階では生活改善や冠婚葬祭のことが多く扱われた。宗教活動や政治活動、利益を目的とした商業活動などは行わない。地区民が決めた会則があり年に1度は総会を開き、下記のような活動が行われてきた。活動を決めるにあたっては、地区の行政関係、各種の諸団体、住民の理解と協力が原則となっている。

①地区民総参加による住民触れ合い活動 ②地域の伝統文化等保存継承する活動 ③触れ合いを深めるレクリエーション活動 ④学習意欲の向上や学習活動の展開と奨励活動 ⑤世代間交流を推進する活動 ⑥住みよい明るいわが町づくりの活動 ⑦講演会・研究会や研修会・学習会・サークル活動 ⑧地区住民の生活に関係すること

これらの活動を昭和25年から5年ごとにまとめてみると次のようになる。

表1. 60年間にわたる上高田公民館での主な活動

昭和25年～29年	公民館報「あゆみ」第1号・農業問題・俳句教室・青年と文化運動・公民とは何かの議論・漫画教室・料理学級・育成会・人権同和・地区内道路工事・生活改善・冠婚葬祭・サークル(民謡・謡曲・生花)春秋祭・朝鮮戦争の勃発への不安と恐怖
昭和30年～34年	短歌・映画鑑賞・各家庭の風呂場改善・台所改善・健康教室・生活文化向上の活動・大衆スポーツの推進・各種の趣味の育成・教養講座・映画鑑賞会・区内美化運動・和洋料理教室・婦人講座・区民旅行・春秋祭・人権同和・食糧事情の改善
昭和35年～39年	安保改定と平和生活・区内道路改善・敬老会・レクリエーション・防犯活動・観光活動・春秋祭・人権同和など。経済はやや改善の方向に向かったが、相変わらず農業経営は厳しく、農業をあきらめて会社員になる者が多くなった。
昭和40年～44年	経済成長が大きく活動が非常に活発になり多方面に及んだ。
昭和45年～49年	心身健康法・春秋祭・自然散策・道路工事・敬老会・人権同和・レクリエーション

昭和50年～54年	成人学校・球技大会・レクレーション・お楽しみ会・生花教室・民謡講習会・手芸講習会・囲碁大会・春秋祭・人権同和・各種サークルの勉強会・盆踊り
昭和55年～59年	花市・盆踊り・球技大会・人権同和・敬老会・育成会の活動・春秋祭
昭和60年～平成4年 (9年間)	共働きと核家族化の進行・花市・盆踊り・講習会・各種のスポーツ大会・講演会・料理教室・漬物教室・民謡教室・芸能会・廃品回収・リーダー講習会・防犯パトロール・親子遠足・花火大会・神社清掃・粘土焼き・子どもみこし・人権同和・マラソン・春秋祭
平成5年～9年	健康と文化の学習・地域活動・公害問題・青少年健全育成・体育活動・ゴミ問題・福祉活動・花市・敬老会・ふるさと文化祭・こいのぼり運動会・料理教室・ボーリング大会・漬物教室・歌謡曲・吟詠会・囲碁・将棋・春秋祭・人権同和
平成10年～14年	料理教室・書道・陶芸・押し花・千切り絵・盆踊り・各種の球技大会・大正琴・吟詠会・長寿琴・卓球・合奏・合唱・生花・謡曲・囲碁・春秋祭・人権同和
平成15年～19年	南向塚古墳学習・グランドゴルフ・納涼祭・盆踊り・球技大会・敬老会・春秋祭・夜店開店・ふるさとふれあい教室・文化芸能祭・注連縄作り・ウオークラリー・人権同和
平成20年～22年 (3年間)	公民館館報100号・こいのぼり運動会・花火大会・納涼祭・球技大会・敬老会・春秋祭りや夜店・ふるさと文化芸能祭・3世代交流餅つき大会(250人)・吟詠会・大正琴・合唱・合奏・生花・謡曲・囲碁・フラダンス・人権同和

4. 上高田地域公民館で学んだ必要不可欠なこと

上高田地域公民館は重要な機能を果たし地域にとっては無くてはならない存在ではあるが、60年の歴史を経るなかで社会状況も大きく変化し、それに沿うように活動内容も変化してきている。その変化の中で地域の大人たちは何を学んできたのであろうか。その成果には以下のことが認められる。

4.1 いい生き方をしている大人でありたい

①自分に素直で夢を持って生きている大人 ②基本的なマナーをわかまえている大人 ③行動や実践で示すことのできる大人 ④大切なことを気付かせてくれる大人 ⑤子どもを温かく見守ってくれる大人 ⑥住む地域社会を大切にしようとする大人 ⑦善悪のけじめがあり悪いことはいけないと諭し、見てみぬ振りをしない大人

4.2 心の広い大人でありたい

- ①子どものよいところを褒めてやる大人 ②子どもの話を聞いてあげる大人 ③傾聴する大人
- ④子どもと一緒に悩んであげる大人 ⑤子どもの立場に立って考えられる大人

4.3 特色ある地域づくりの出来る大人でありたい

- ①褒めてくれる人がいる, 叱ってくれる人がいる地域 ②励ましてくれる人がいる地域
- ③受け入れてくれる人がいる地域 ④認めてくれる人がいる地域

4.4 地域の子どもは地域で育てる

- ①体を通して学んだことは本物だということ ②子どもに生きる力を育む ③自分の生き方を自分で切り開いていける力を育む ④自ら学び考え行動していく力 ⑤遅く生きる意思と力
- ⑥思いやり豊かな感性 ⑦人・こと・ものをよく学び合い問題を解決することを知る ⑧より強く学び自分自身を高める ⑨ルールの大切さ, 協力する大切さを学ぶ ⑩家族の一員としての自覚を持つ ⑩他人を大切にする, 他者の立場を大切に

5. 生涯学習に関わる各種答申の変遷

上高田地域公民館は, 社会教育や生涯教育にかかわる国や県の政策の変化の影響を受けてきている。生涯学習政策の流れをまとめてみると次のようになる。

- 1965年 生涯教育スローガン時代
- 1971年 急激な社会構造の変化に対処する社会教育のあり方 (社会教育審議会答申)
- 1981年 生涯教育について (中央教育審議会答申)
- 1985年 個性重視・基礎基本の重視, 創造性・考える力・表現力, 生涯学習体制への整備 (臨時教育審議会答申)
- 1986年 人生80年型社会への移行, 物質的要求から質的充実, 精神・文化の充実
新しい技術や知識を継続的に学ぶ生涯学習体系への移行
- 1987年 生涯学習体系への移行 (臨時教育審議会最終答申)
- 1990年 生涯学習の基盤整備, 生涯学習振興法
- 1991年 新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について
長野県生涯学習基本構想策定
- 1992年 今後の社会の動向に対応した生涯教育の振興の方策について (生涯学習審議会答申)
- 1995年 長野県の重点課題「学習機会の整備と充実, 学習意欲の向上, 成果の評価と社会への還元」(長野県社会教育審議会答申)
- 1996年 地域における生涯学習機会の充実方策について (生涯学習審議会答申)
- 1997年 生涯学習の成果をいかすための方策について (生涯学習審議会答申)
- 1998年 社会の変化に対応した今後の社会教育のあり方について (生涯学習審議会答申)
- 1999年 生活体験・自然体験が日本の子どもの心を育む。学習の成果を幅広く生かすための方策について (生涯学習審議会答申)
- 2000年 新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について (生涯学習審議会答申)

- 2002年 多様な奉仕, 体験活動で心豊かな日本人を育む, 子どもの読書活動の推進に関する法律施行(社会教育法改正)
- 2002年 青少年の奉仕活動, 体験活動の推進方策等について(中央教育審議会答申)
- 2003年 新しい時代に相応しい教育基本法と教育振興基本計画の方策について(中央教育審議会答申)
- 2004年 今後の生涯学習の振興方策について, 地域を活性化し地域づくりを推進するための人づくりについて(経済財政審議会答申)
- 2005年 新しい時代を切り拓く生涯教育の振興方策について, 青少年の意欲を高め心と体の相伴った成長を促す方策について(中央教育審議会答申)
長野県生涯学習審議会よりの建議「地域での子育て支援」「小中学生の体験活動」「中高生の社会参加」「地域における住民参加行事」「地域の教育力向上を横断的に推進」
- 2006年 青少年の意欲を高め心と体の相伴った成長を促す方策について
- 2007年 新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について(中央教育審議会答申)
長野県中期総合計画①豊かな自然と共に生きる長野県 ②力強い産業を支える活力溢れる長野県 ③安全安心な暮らしを作る長野県 ④未来を切り開く人を育む長野県 ⑤市町村が主役
- 2008年 新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策～知の循環型社会の構築(中央教育審議会答申)

6. 平成20年度の上高田地域公民館の活動

平成20年度に実施された事業のうち, 3世代間交流に関する活動について記述することにした。各種行事には, 祖父母と孫が一緒に参加している活動も多くあるし, また老人たちの互いの仲間と連れ添っての参加, 夫婦の参加, 親子の参加なども多く見られた。

6.1 運動会

通学区の小学校校庭で行う運動会は地区内の子どもから老人まで300人ほどが出場し, 種目も多種多様であり, それこそ和気藹々に1日を楽しむことができた。若者が老人を労わる姿は微笑ましい。また, 老人が若者に語りかけよく話を聴いている姿には得がたい尊さを感じる。

6.2 文化芸能祭

文化芸能祭では200人ほどが公民館に参集し, 自分の得意とする絵画・写真・工芸品・書・収集物・その他の物が所狭しと展示された。素人の作品とは思えない力作ばかりで見学者からの感動の声が聞かれた。またゆっくりと鑑賞し, 自分も何か勉強してみようとの気持ちを強める時間となった。芸能の部門では, 多くのサークルが1年間かけて練習してきた成果を発表する貴重な場面となった。さすがに好きなことで1年間練習を積み重ねただけであり, それぞれかなりの腕前である。老若男女が仲良く得意とする芸能を披露され絶賛を受けていた。披露される歌舞音曲は素人らしくなく, まるで玄人もどきではないかと思わせるものもある。老若男女

が顔を突合せて笑い、話しあい、共に食べている姿は正に3世代間交流の一場面であった。

餅つき交流会は45kgの餅米を石臼で子どもと老人、また親子で30臼ほど搗くのである。それをあんこ、ごま、きな粉でぼた餅にして300人ほどの参加者が一緒に食べる。もちろん米を前日にとぐ者、当日掃除をする者、ちぎるもの、あんこ・ごま・きな粉などをつけるもの、運ぶもの、その他の諸準備を若いも若き皆で協力して、おいしい味を皆で楽しく食べる。同時に今年から南向汁という地域特産の産物や味付けをして特殊などんぶりものを作った。味の良さにびっくり仰天舌鼓をうった。その後、理科の専門家による多くの科学実験・科学マジックなどで大勢がその不思議さに驚きを隠せないようであった。このようにして3世代間交流が推進された。これらの活動を通して老人と若者が多くの交流を交わすことができた。これらの活動や交流は得難い体験であり、参加者の間で温かい人間的な心の触れ合いもできた。

7. 古牧住民自治協議会の発足と長野市上高田公民館

7.1 小牧住民自治協議会の発足

上高田地区が含まれている長野市古牧地域には、専従者が常駐している古牧公民館がある。また古牧地域には13の地区があり、それぞれに常駐の勤務者がいない地域公民館がある。長野市では住民自治に関する部分を大改変し、古牧には古牧地区住民自治協議会が結成され、平成22年から始動することになった。ここには福祉部会（福祉健康部+子育て支援部）、安全環境部会（安全部+環境美化部）、総務部会（地域振興部+広報部+事務部）、公民館部会（文化教養部+健全育成部+体育部）からなる組織で構成されることになった。

2010年より長野市において地域住民自治協議会が発足したため、公民館の組織と活動分野は次のように変更された。今までは長野市の各地区それぞれに地区行政の中心に区長がいて公民館も地区の一組織であった。新しく各地区に地区住民自治協議会が設立され組織が大きく変更された。例えば今までは古牧地区には13地域があり、それぞれに区長や公民館があり活動してきた。人口は平成22年6月1日現在で25,949人の多さになっている。古牧住民自治協議会の新体制では、区長その他の役員で企画調整委員会を構成し、その下に総務部会、福祉部会、安全環境部会、公民館部会が設置された。そのうち公民館部会には文化教養部・健全育成部・体育部がある。人権同和教育などは文化教養部で扱うことになった。しかし、13地区それぞれの地域公民館の構成は同じままである。人口増加が更に進行中の上高田地区は、公民館部会の活動を含め今後様々な変化が予想されている。

7.2 公民館部会

公民館部会では文化活動、教養活動、人権同和、青少年育成、スポーツ振興、男女共同参画、文化祭、敬老行事、サークル活動、広報発行、挨拶運動、子ども会、区スポーツ事業などが主な活動分野となる。公民館関係ではほぼ内容的には以前のものと同通であるが、経費の関係がどのように充実していくのか、また各地区の戦後60年の歴史と60年以上の蓄積された伝統がどのような影響を受けるかは今後の問題である。

平成22年からこの組織で動き出すことになったが幾つかの問題点がある。より充実した活動ができるのか、旧来の公民館活動がどのように変容していくのか、公民館活動がいかに活性化していくのかどうか、というような課題が山積している。

これまでの地域公民館連絡協議会（地公連という）は上記の古牧住民自治協議会の公民館部会ということになるが、地域公民館相互の連絡提携とその活動を一層効果的に推進するための部会になることが求められる。

その主な事業は地域公民館相互の情報交換、市立公民館との情報交換、古牧地区全域にわたる文化・教養・体育に関する集会を開催することなどである。

(1) 活動内容

①区民総参加による住民触れ合い活動 ②地域の伝統文化等を保存継承する活動 ③触れ合いを深めるレクリエーション活動 ④学習意欲の向上や学習活動の奨励 ⑤世代間交流を推進する活動 ⑥文化教養教育活動 ⑦友愛と楽しみ会など

(2) 地域公民館の事業を企画する上での視点

①公民館は住民のものであること ②事業は公民館の目的を達成するためのものであること ③身近な問題を取り上げること ④住民への呼びかけに工夫をすること ⑤誰でも気楽に集まれるようにすること ⑥グループ・サークルとの協力をはかること ⑦各団体と連携し事業の競合を避けること

(3) 地域公民館の役員の心構え

①地域づくりの条件整備をすること ②住民の声をよく聴くこと ③自分たちの住む地域は自分たちで住みよい地域にしていくという気概を持つこと ④事業がマンネリ化しないように創意工夫すること ⑤できるだけ多くの人が役員経験をもつこと ⑥活動の積み重ねを大切にすること、などが役員の心構えとして欠かせないことである。

8. 長野市上高田地域公民館の運営に当たって特に大切なこと

8.1 上高田公民館の運営に当たって重要なこと

上高田地域公民館の運営に当たっては、次のことが重要である。①人が集まることでこそ公民館の役割を果たすことができること ②集うー学ぶー結ぶこと ③参加するー知るー結ぶことを大切にすること ④楽しい所、為になるところ、頼りになるところ、連帯と理解の輪が広がる所、交流が広がり活力に満ちた地域となるように住民中心で運営すること ⑤地域に誇りをもち優しさや協力の大切さを学ぶこと ⑥人間関係を豊かにすること ⑦時代の進展と共に上高田における世帯数や戸数並びに住民の数が急速に増加してきている。お互いに住み暮らし生活をする我が郷土「上高田の長い歴史と伝統」などについて、学び知りたいといういわゆる「郷土を学び知る」「区民学習会など」への学習ニーズがある。これらを具現化していくことが重要である。⑧多くの区民が「集い・結び・学び・連帯し・明るく住みよい町づくり」をしていくことは公民館の当然な活動である。これらのことを様々な事業展開の中で具現化していくことが重要である。⑨社会一般の中には、急速に変化する社会経済の状況と情報化の進

行などに伴い、人々の連帯感が薄れ、相互の絆が弱くなってきている傾向がある。このような課題に対しては、異世代間交流や区民が連帯して活動することができる事業を企画し、区民の連帯と絆を強めていくことが重要である。⑩上高田地域には古来、幾多の伝統・芸能が保存され、多くの先人の努力により今日まで継承されてきている。これら多くの伝統・芸能をしっかりと会得し、確実に次世代に継承していくことは、公民館の役割として極めて重要なことである。上高田の文化財・各種の芸能・文化等を安全確実に継承していくことが重要である。

8.2 長野市上高田地域公民館活動の抱える問題点

生活が便利になり、生活様式も多様化してきた。働き方も複雑化し多様化していることに伴い、上高田地域公民館には近年以下のような問題が難問となってきた。

①人々の集まりが少ない。急速に戸数が増加しかつ人口も増加してきている。公民館の活動に直接参加する人の割合は少ない。特にマンションを購入し転居してきた人も大変多い。新しく転居された方々、以前から居住している方々、老人、若者、子ども、職場に働きに出ている方、男性も女性もより多くの方々が公民館活動に参加していただくにはどのようにしたらよいか。できるだけ多くの区民の参加が可能になる方策は何か。

②役員の仕事が多く役員になりたがらない。③勤務が多忙である。④地域内の人材の発掘や発見が不十分である。⑤他に民間の営業としての教育学習スポーツ機関が増加しているのでそちらに流れるなどの問題点がある。

9. まとめ

未曾有の太平洋戦争の敗戦後、人々は生きていくのに精一杯の上、社会は混乱疲弊し秩序も乱れていた中で、いち早く社会教育特に公民館の活動が展開された。初期の上高田公民館においては、臣民から公民へ、食生活の改善、健康増進と維持、住居の改善、冠婚葬祭、住民の食糧確保、食糧増産、民主主義の考えの普及、教養を高めることなどを通して地域づくり活動が展開され、重要な任務を果たしてきた。以後多くの住民の協力と努力があり、同時代に生きる人々の生きがいを形成してきた。

時代が変わり今日、生活は便利になり物資は豊かになり情報通信も便利になった。社会は多様化し、複雑化や孤立化が進んでいる。人と人とのつながりが弱くなり地域社会の人間関係が希薄になってきている。このような社会の変化の中で、長野市上高田公民館では上述したように多くの努力と工夫がなされてきたが、今後、より多くの住民が集い、結び、温かい人間的な絆を強めていくことがさらに一層求められている。

「新しい公共」の姿として、住民一人ひとりが博愛の精神を発揮して社会貢献活動を行ない、住民と行政が協働する社会を創出することが求められている。また、新しい時代に相応しい「地域の教育力」の再構築を目指して家庭・学校・地域・行政等が連携協力して活動を展開することが求められている。

文献

関川光彦・宮澤利雄・松本壽昭・中澤國彦・小林剛・西堀真二郎・傳田貴彦編（2009）『「館報かみたかだ」発行百号記念 えれエ 変わったなえ お地藏さん』上高田青年団機関紙「あゆみ」，上高田公民館「館報かみたかだ」縮刷版 上高田館報縮刷版刊行委員会

宮澤利雄・北村忠三郎・倉島茂宏・小林一品・小林剛・小林美佐子・武田淳志・田島時子・中澤早苗・中澤由美子・松本壽昭・南敏雄・宮島幸正・宮原貞子・山口栄治・和田さと子・和田大編（2001）『なつちよだい お地藏さま—長野市上高田公民館 五十年のあゆみ—』上高田公民館五十年史編集委員会

（2010年6月21日 受付）